

#### 第4回関東障害者臨床研究会開催にあたって

今回の関東障害者歯科研究会のテーマを決めるに当たり、より身近で地域に根差したものにしようとして主催者間で話し合いを重ねた結果、障害児・者の歯科医療に携わる者にとって長年の課題である「脳性まひ者に関すること」としました。その理由として、医療レベルの目覚ましい発展により原因の多くを占めていた周産期の低酸素症による脳性まひ発生は減少しましたが、1980年代以降その発生原因が低体重児、超低体重児と変化し結果的に全体的な脳性まひ発生率を増加させており、さらにその症候は以前より多様化していることがあげられました。このような背景から多くの歯科医療従事者は、脳性まひ者の歯科診療の現場において、不随意運動、過度な緊張、反射や呼吸管理の困難さ、コミュニケーションの不自由さといった往年の課題に対する面だけでなく、合併する多様な疾患への対応、経時的に変化する身体機能への対応などの面も加わりより一層診療遂行への困難さを感じているのではないのでしょうか。そしてこのような困難さから医療を受ける側の快適さよりも提供する側の便利さを求めて、薬物を用いた行動調整法を選択している例も少なくないのではないのでしょうか。

一方、脳性まひ者の方々や、その保護者の方々にとっての歯科医療に対する思いや求めているものを把握することは質の高い医療を提供するために必要です。関東において障害児・者の歯科医療を提供する場は増加してはいるものの、現実としては、「自分は治療が困難だから、自分の子供は治療が困難だから、他に行き場がないから、診察して貰えるだけでもありがたい」と考えてしまい、依然言いたいことも言えない環境におかれていることも多いのではないのでしょうか。

また、多くは作業所、施設や学校で一日の大半を過ごされますので、勤務されている職員、教員の方々も利用者の方々のわずかな変化に気づくことが出来る一方、日々の口腔管理に深く関わることも多く、疑問に思ったり、不安に思ったり、自信がなかつたりすることもあるかと思われませんが、それらを解決できるような相談機関がないなど多くの問題を抱えていることも予測されます。さらに、利用者の方や保護者の方との密接な関係から、日常生活における様々な質問を受ける機会も多いかと思えます。これは歯科に関することも同様で、その内容は歯科診療の場、治療内容、口腔の清掃管理、口腔疾患、摂食嚥下に関する事など多岐にわたると思われ、全てに対応することは非常に困難であり困惑されている方々も多いのではないのでしょうか。

そこで、「脳性まひ者の歯科治療の現状」というテーマで患者様ご本人、患者様を持つ保護者、肢体不自由系の特別支援学校の教員からお話を頂こうとシンポジウムを企画しました。患者様の立場から、保護者の立場から、そして教員

の立場からどのようなご苦勞や歯科に対する要望があるかをお聞きすることは、私たち歯科医療従事者が今後の対応の参考になることと思われま

さらに脳性まひ者は口腔の問題とともに呼吸に関しても困難な場合がみられ、呼吸の管理は、危険を伴う歯科治療の現場では生命にも関わる重要な問題であるため、特別講演では、昭和大学の皆川哲夫先生をお招きして、「呼吸障害と呼吸管理」をテーマにご講演頂くことにいたしました。日々の診療場面での皆様のお役に立つことと思います。

私達は、患者によりそった安全、安心かつ高いレベルの歯科医療を提供する義務があります。今回の関東障害者歯科研究会での内容が、今後の障害児・者の歯科医療の発展に少しでも寄与できればと思います。

宮下 直也  
大塚 義顕  
野本たかと

## 開催概要

期日：平成 25 年 7 月 21 日（日）午後 1～5 時

場所：日本大学松戸歯学部 101 教室

（松戸駅からバスで 15 分（230 円）もしくはタクシーで 8 分（1340 円））

駐車場 有（100 台）

参加費：1,000 円

定 員：200 名

内容：

パネルディスカッション「脳性まひ者の歯科治療の現状」

—患者様の立場から— 石塚 昌行様

—保護者の立場から— 穴沢 正広様

—特別支援学校の立場から— 廣田 美津子様

特別講演

「障害者における呼吸管理について」

宮川 哲夫先生（昭和大学大学院保健医療学研究科呼吸ケア領域）

\*事前申し込みは不要です。当日、会場へお越しください。